アーカイブ室新聞　（2009 年 3 月 12 日　第 149 号）

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室　中桐正夫

＊　大正初期の東京天文台 1 号官舎絵図面が三鷹市登録文化財に

1888 年、東京天文台は東京大学天象台、海軍観象台、内務省地理局が統合され正式に発足した。東京天文台は海軍観象台があった麻布区飯倉の地に置かれたが、その地は狭隘であり、また都心であったため都市の明かりのため観測がしづらく、観測条件のよい北多摩群三鷹村に移転することとなり、10 万坪近い土地を明治末期に購入した。中央線は国分寺まで電化されていたが、まだ三鷹駅はない時代であった。三鷹への移転は遅々として進まなかったが、大正 4 年(1915 年)には 1 号官舎が建設された。その 1 号官舎は高等官官舎であり、建坪 55 坪以上(184 平米)の大きな官舎である。この官舎新築の絵図面が残っている。2 号官舎の図面もいっしょにあるから同時に建設されたのであろう。2 号官舎は判任官官舎とある。

1 号官舎の絵図面を見ると、書生部屋、女中部屋、書斎、客間などがあり、大正時代の高等官の暮らしぶりが想像されるなかなかのものである。

国立天文台となり 20 年を経た今では、東京天文台時代の 43 号まであった官舎は悉く取り壊されたが、1 号官舎のみが文化財としての価値があるとして取り壊されず残され、三鷹市との間で保存と有効利用が検討され、「三鷹市星と森と絵本の家」として活用していく事が国立天文台と三鷹市の間で決められ、2009 年 7 月 7 日、七夕の日の開館を目指して着々と工事が進んでいる。

保存された 1 号官舎は、一端取り壊され、使用可能な部材を使って、外観はほぼ復元され三鷹市の文化財として登録される。これに伴い、この官舎の新築当時の絵図面もこの文化財に登録される 1 号官舎の関連資料として三鷹市の文化財として登録される事になり、国立天文台側の手続きが終了した。

この絵図面の正式名称は「甲第一号～四号　東京帝国大学理科大学天文台高等官官舎新築之図　縮尺百分の 1」で、4 枚である。写真 1 が図面を綴じた冊子である。

写真 1　大正 3 年～大正 9 年の東京天文台改築図の綴り

図面１～4 号が写真 2～5 である。

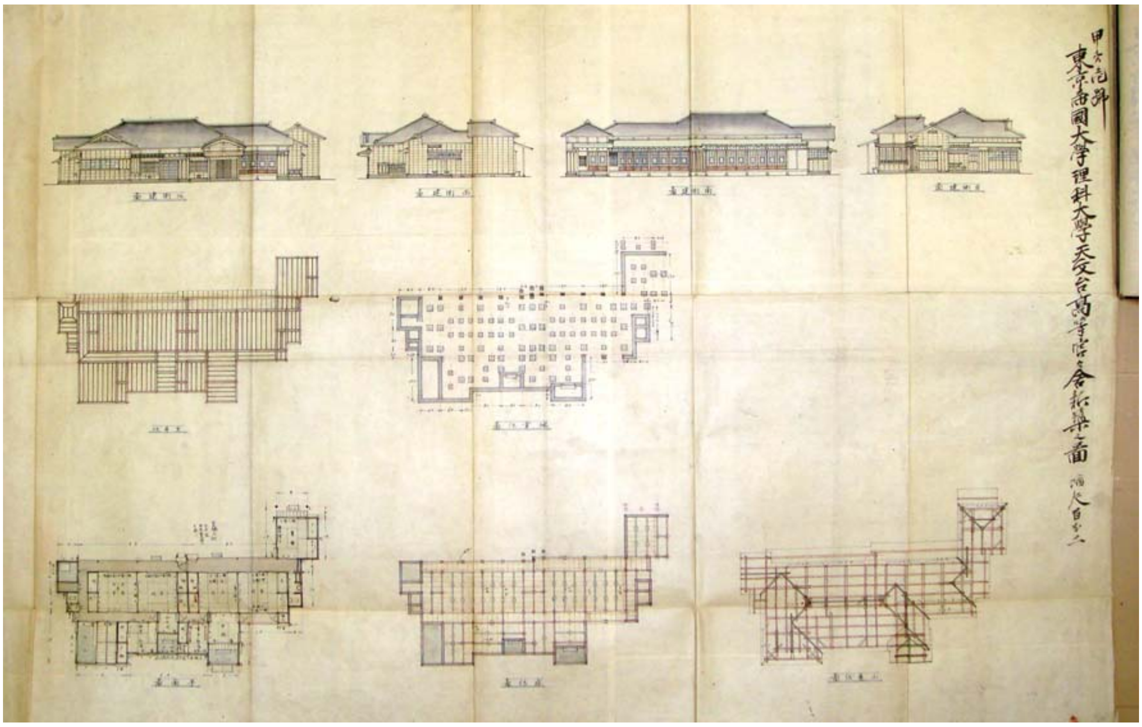

写真 2　甲之一号図

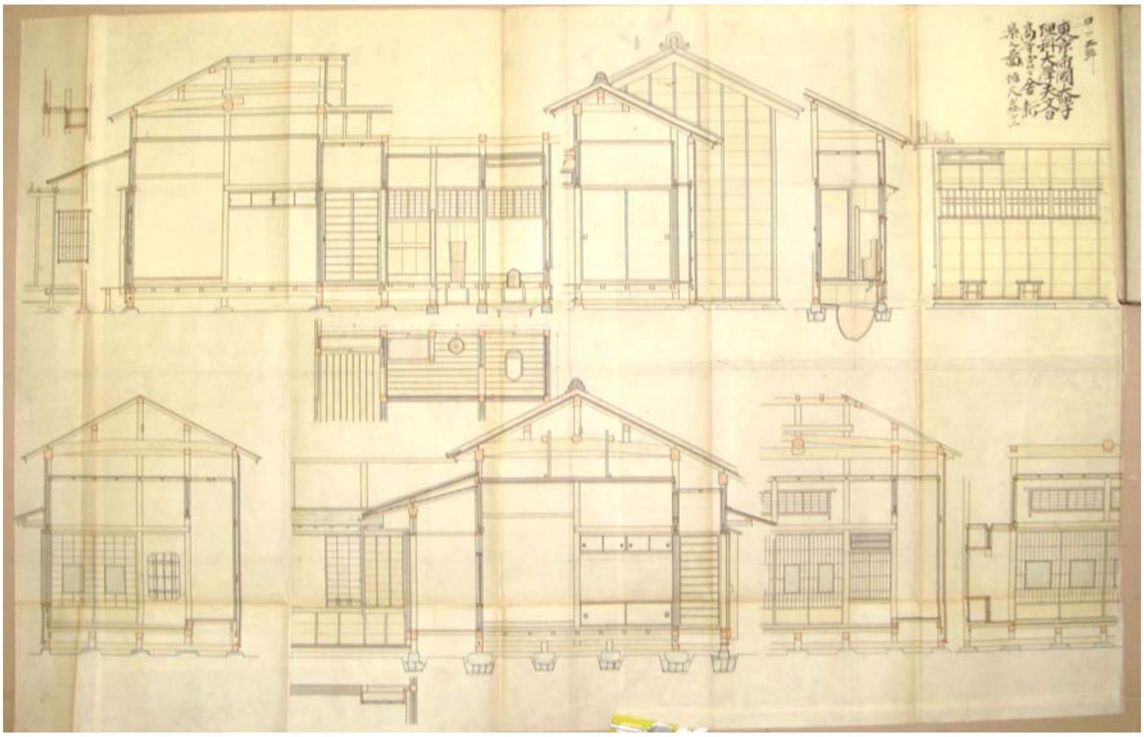

写真 3　甲之二号図

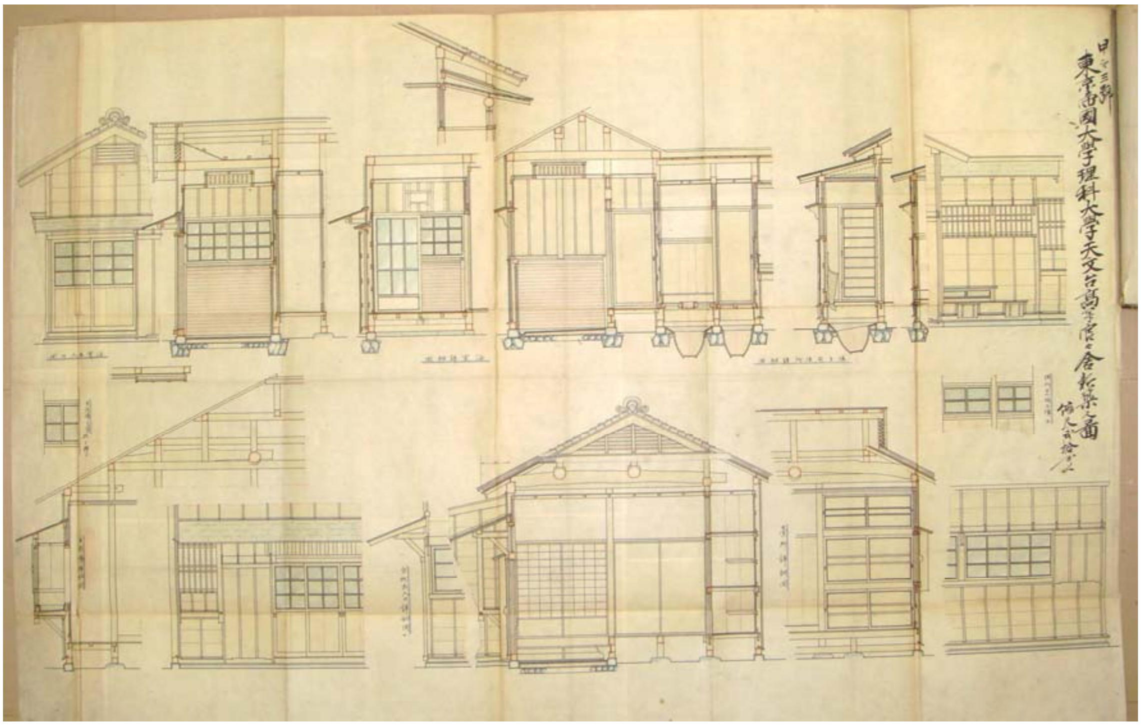

写真 4　甲之三号図

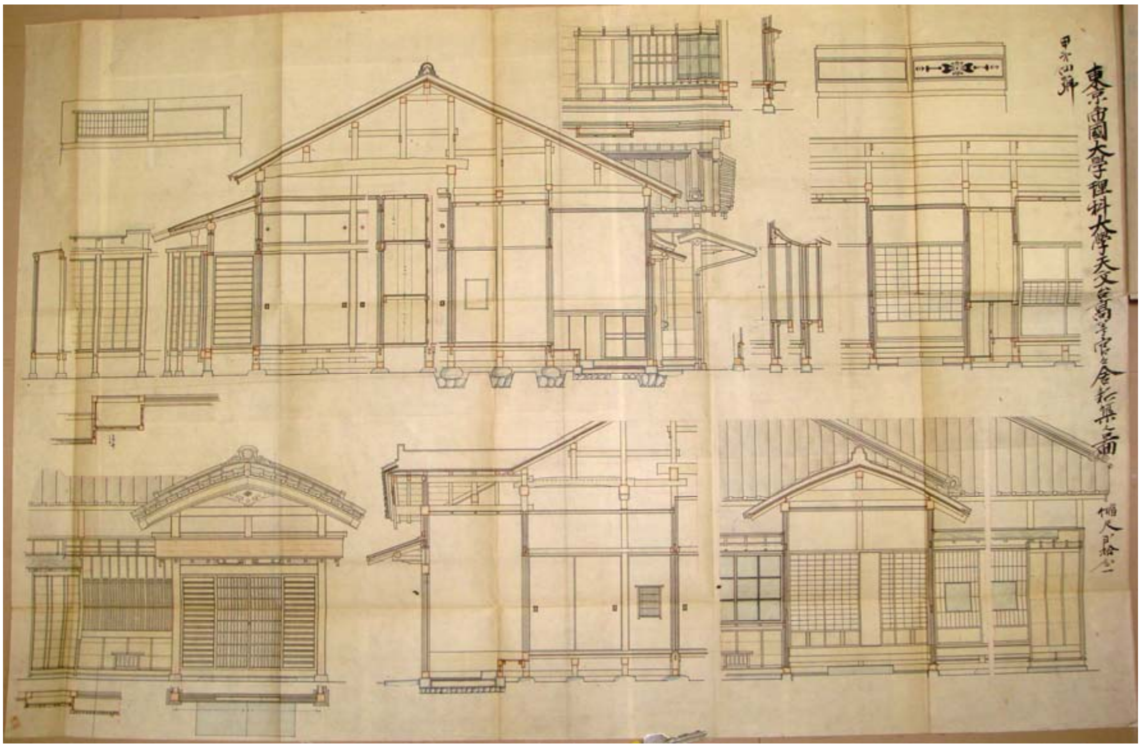

写真 5　甲之四号図

これらの写真では建物としての官舎の感じがつかめないであろうから、写真 6 に北側からの正面図、写真 7 に南側からの正面図を示す。写真 8 に西側からの図、写真 9 に東側からの図を示す。

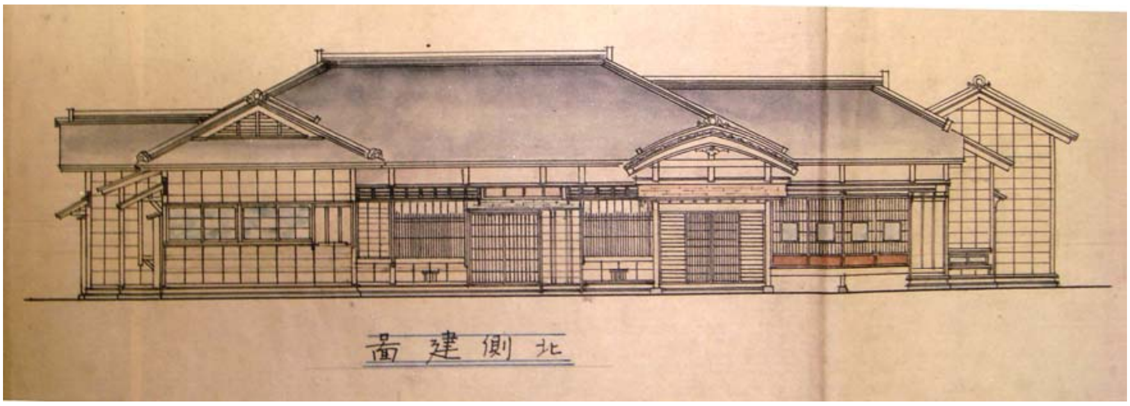

写真６　北側からの正面図

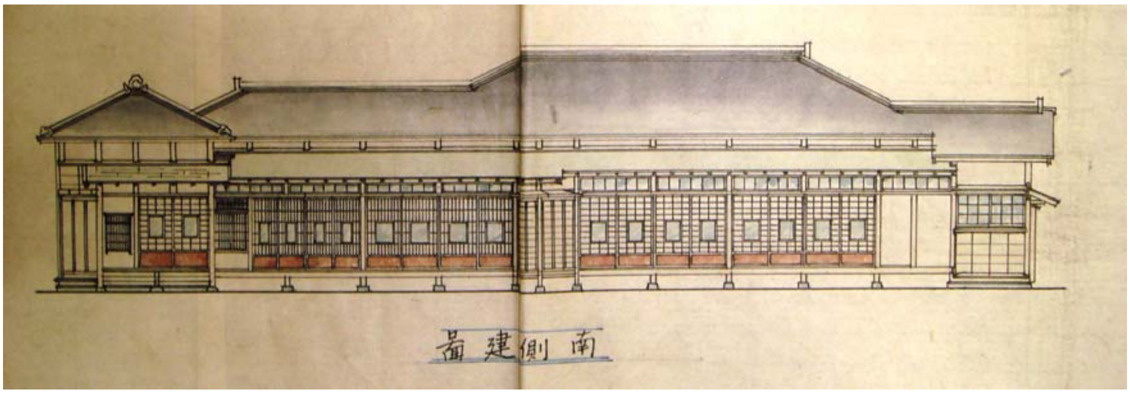

写真７　南側からの正面図

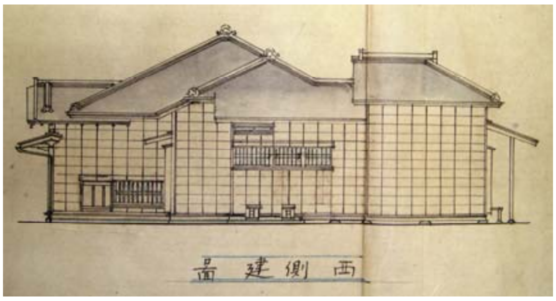

写真８　西側からの図

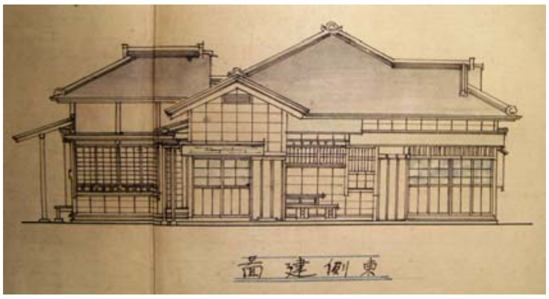

写真９　東側からの図

東京天文台官舎は、高等官官舎が 1 号、3 号であり、判任官官舎が 2 号、4 号、5 号、6 号、7 号とあった。後に 3 号官舎は半分に分断され、3 号甲、3 号乙として 2 軒に引き家で引き離され､2 軒の官舎になっている。その頃雇員･傭人用の官舎として 2 軒長屋の 8 号(甲、乙）、9 号（甲、乙）、10 号（甲、乙）が建設されている。

大正 14 年度以降に 11 号、12 号、13 号官舎が建設され、その後に 14 号官舎として台長官舎が建設されている。

1 号官舎と 2 号官舎の間取りの図面を写真 10、写真 11 に載せる。高等官官舎と判任官官舎との対比もおもしろい。判任官官舎にも女中部屋が着いている。

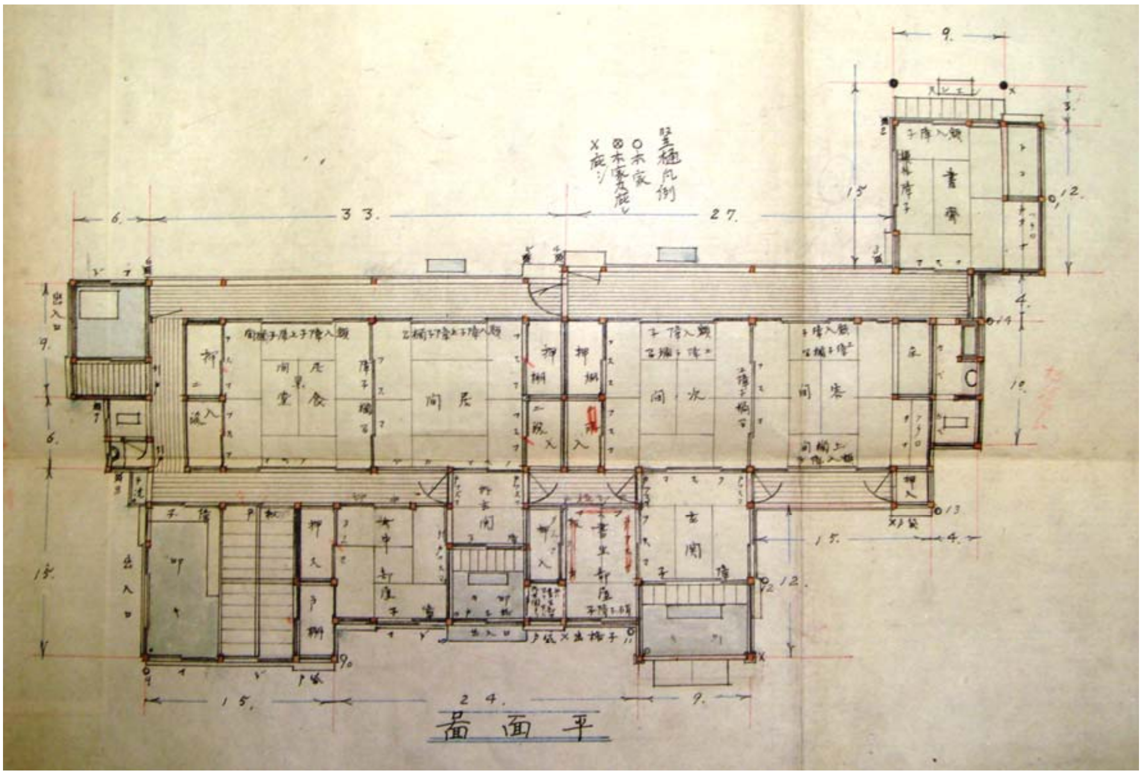

写真 10　1 号官舎（高等官官舎）の間取り図

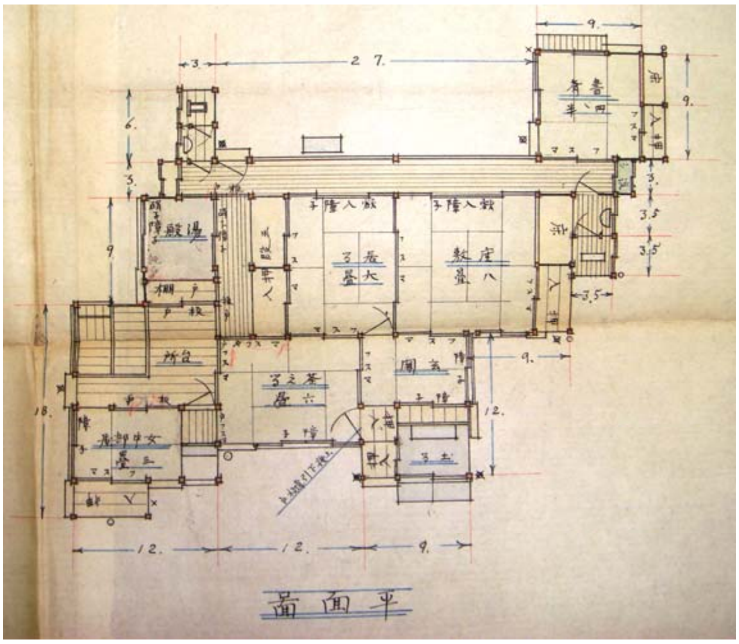

写真 11　2 号官舎（判任官官舎）の間取り図